

グローバル補助金の活用事例発表

国際ロータリー第2690地区 第11グループ
ガバナー補佐 福嶋 裕美子

自己紹介

- 神奈川県横浜市生まれ。
青山学院女子短期大学英文学科を卒業後、
結婚、出産を経て、47歳で作業療法士の国家資格
を取得。その後国際医療福祉大学大学院で54歳の
時に医療福祉学博士を取得。
- 1999年株式会社ドルフィン・エイド代表取締役就任、
2012年学校法人福嶋学園理事長就任、2018年社会福祉法
人ドルフィン福祉会理事長就任、2023年リエゾン株式会
社代表取締役就任、2025年株式会社芳照代表取締役就任

福嶋ドルフィングループ



医療法人 福嶋医院

- ・福嶋医院 **理事長 福嶋 啓祐**
- ・福嶋医院 倉敷駅前診療所
- ・グループホームいるかの郷
- ・介護老人保健施設
いるかの家リハビリテーションセンター
従来型／ユニット型入所 ショートステイ
通所リハビリテーション 訪問リハビリテーション
- ・指定居宅介護支援事業所 いるか
- ・一般旅客自動車運送事業 寄島営業所

リエゾン株式会社

- ・ドルフィン薬局

株式会社ドルフィン・エイド

- ・介護付有料老人ホーム ドルフィン倉敷
- ・介護付有料老人ホーム ドルフィン玉島
- ・介護付有料老人ホーム ドルフィン笠岡
- ・介護付有料老人ホーム ドルフィン拓海
- ・介護付有料老人ホーム ドルフィン岩倉
- ・住宅型有料老人ホーム ドルフィン港北
- ・ヘルパーステーション ドルフィン港北
- ・有料職業紹介/登録支援機関
- ・就労支援継続支援B型事業所 あいびー岡山

代表取締役 福嶋 裕美子

- ・児童発達支援事業所 ドルフィン庭瀬
- ・ドルフィン・メイトこども園 新倉敷
- ・ドルフィン・メイトこども園 中山下
- ・ドルフィン・メイトこども園 倉敷
- ・ドルフィン・グレースこども園 杜の街
- ・ドルフィン・ブランチこども園 北長瀬
- ・ドルフィン・メイトこども園 操山東
- ・J-PICモバイルステーション Plaba岡山辰巳店

学校法人 福嶋学園

- ・専門学校 倉敷リハビリテーション学院
理事長 福嶋 裕美子

社会福祉法人 ドルフィン福祉会

- ・ドルフィン・キッズ保育園（倉敷市認可保育園）
- ・ドルフィン・キッズ保育園川口（川口市認可保育園）
- ・グループホームユートピアドルフィン ドルフィン三ツ山
理事長 福嶋 裕美子

福嶋医院現理事長は、米子の
荒尾藩の御典医を経て17代目

写真は当時使用していたお籠
と人力車

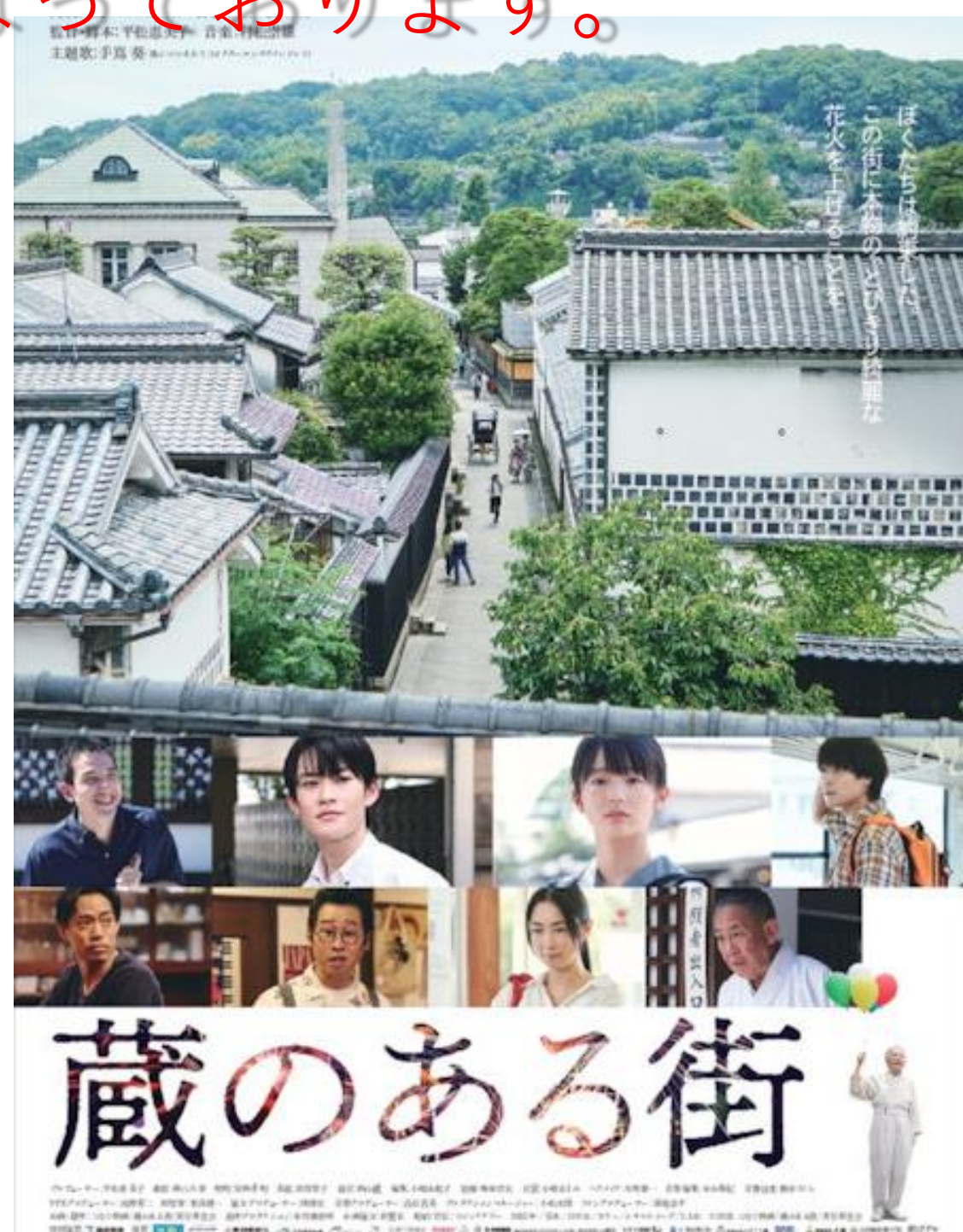


往診用のお籠と人力車

当グループがロケ地のひとつとなっております。



- ・福嶋医院
- ・倉敷駅前診療所
- ・いるかの家リハビリテーションセンター



- ・福嶋医院倉敷駅前診療所
- ・老人ホーム ドルフィン

本日のアジェンダ

1) DWCSの事例

(District world Community Service・地区世界社会奉仕)

①タイ

②スリランカ

2) DDF(District Designated Fund・地区財団活動資金)

①The Oyster Reef Project

国際ロータリー第2690地区

地区世界社会奉仕（DWCS）プロジェクト助成金 概要

対象：人道的奉仕活動で、援助国のロータリアン等が関与するもの

実施国：1カ国に限定

申請：1クラブ1年度1件

助成金：上限100万円（自己資金50%）

初回申請クラブ：自己資金30%（2回目以降は50%）

継続支援は原則不可（必要な場合は審議）

補助金：ロータリー財団補助金との併用不可

報告義務：完了後にDWCS委員会へ報告

◆ DDF (District Designated Fund) とは？

DDFは、ロータリー地区が自由に使える「地区独自の財団資金」です。

毎年、地区内のロータリークラブや会員がロータリー財団 (The Rotary Foundation, TRF) へ寄付した年次基金の50%が、3年後にDDFとして地区に戻ってきます。

◆ DDFの主な特徴

資金源：地区のロータリアンがロータリー財団へ寄付した年次基金の50%が、3年後にDDFとして地区へ戻ります。

使い道：DDFは、地区補助金やグローバル補助金などに活用できます。

決定権：DDFの具体的な使い道は、地区（地区補助金委員会など）が決定します。

活用対象：教育、保健衛生、職業訓練、災害支援、国際奉仕など、幅広い分野に活用可能です。

◆ DDFの具体的な使い道

DDFは、以下のような活動に活用できます。

- ① 地区補助金 (District Grant)
地区が独自に計画する地域や国際的な奉仕プロジェクトの資金に充当地区内のクラブが申請し、地区が審査・承認して助成
- ② グローバル補助金 (Global Grant)
国際的な規模の奉仕プロジェクトや職業研修チーム (VTT) などに活用
最低3万ドルの資金規模が必要
DDFを充当すると、ロータリー財団本部から同額のマッチング (1:1) が受けられる
- ③ ロータリー平和フェローシップへの支援
世界各地の平和センターで学ぶ平和フェローの奨学金として活用

◆ DDFのポイントまとめ

- 地区の寄付実績に連動
(寄付額が多いほどDDFも増える)
- 地区の裁量で使える
(クラブのニーズに応じた柔軟な活用が可能)
- ロータリー財団補助金の重要な原資
(グローバル補助金への活用でマッチング効果も)

DWCS ・ DDFの事例

プロジェクト名: タイ・バンコクにおける貧困層 要介護高齢者の在宅生活支援プロ ジェクト

目的: タイ・バンコクに暮らす貧困層の要介護
高齢者の在宅生活を健康かつ安寧で持続的な
ものにすること

実施日: 2023年3月9日に、バンコク70RC例会にて
贈呈式を実施

相手国: タイ

収入の部			支出の部		
項目	金額（円）	備考	項目	金額（円）	備考
地区助成金	1,000,000		折りたたみ椅子	36,000	20台
クラブ拠出金	333,120		会議用長机	8,800	1台
			ダイニングテーブル	80,180	6台
			プリンター（設置代込）	27,820	1台
			業務用ノートパソコン	79,960	1台
			情報管理用ノートパソコン	87,960	1台
			車椅子（手動）	66,000	1台
			介護用ベッド（トイレ付）	390,000	5台
			リフォーム費用	556,400	
合計	1,333,120		合計	1,333,120	



贈呈式の前夜祭



バンコク70Rotaryの例会に参加。
点鐘がドラでした。





NGOforOLDY

購入した介護用
ベッドや事務用品
や室内のリノベー
ションの視察。

DWCS活動を終えて

今回のDWCS活動で最も困難だったのは、岡山西ロータリークラブの理事の方々に対する理解促進であった。そのため、前年度に実施した視察が大きな助けとなった。より多くの会員にDWCSの意義を深く理解してもらうことの重要性を改めて感じた。

一方で、今回のプロジェクト自体は、私のタイ在住の友人がすべての段取りを整えてくださったおかげで、円滑に進めることができ、大きな困難を感じることはなかった。

プロジェクト名:スリランカの学校インフラ支援プロジェクト

目的:スリランカ ラスナプura地区の「イッダマルゴダ小中高一貫校」において、学校インフラに支援することにより、教育の質と生徒の学業向上を目的とする。 今回のプロジェクトは、我岡山西RCが提唱する岡山理科大学RACが積極的に進めることにより、スリランカコロンボ大学法学部RACを窓口のコロンボ東RCと協力をして行う。

実施日:2024.03.25 目録贈呈

相手国:スリランカ

実施場所:ラスナプura地区の「イッダマルゴダ小中高一貫校」

項目	金額（円）	備考
地区世界社会奉仕 プロジェクト助成金	600,000	
ク ラ ブ 拠 出 金	300,000	
そ の 他	33,214	NGOスプートニク
合計額	933,214	

項目	金額（円）	備考
防御ネット設置	35,899	
給水システムの設置	331,032	
仕切り板の設置	28,950	
人件費(工事費)	372,023	
資材運搬費・機器費	165,310	
合計額	933,214	



コロンボ大学法学部・岡山理科大学のRACの皆さん



手作りの国旗
掲揚。



在日本大使館の水越大使を表敬訪問



コロンボ大学法
学部・岡山理科
大学のRACの幹部
の2人



DWCS活動を終えて

今回のプロジェクトは岡山西ロータリークラブと岡山理科大学RACのメンバーと共に企画をして行ったもので、現地との交渉は主に岡山理科大学RACとコロンボ大学法学部RACとの間で綿密に行われた。RACにとっては将来に向けての貴重な体験に成ったと思う。

特にコロンボ大学法学部RACのメンバーは滞在中ずっと同行をし、皆のお世話をしてくれると共に、岡山理科大学RACのメンバーと友情を深められたと思う。その後両クラブ間での友好クラブ提携が行われた。

今回のプロジェクトによってスリランカとの友好が少しでも深められ、又若者同士の交流が続けられることが最大の成果だと思っている。

クラブの会員の方々に今後もRACメンバーの成長に伴う活動の重要性を理解を継続してほしいと願う。

今月、スリランカのDWCSに関わて下さいました
日本語学校のエシヤンタ理事長からお電話を頂きました。

内容は、支援先の学校の校長先生からのご伝言でした。

校長のスジューワ先生から、皆様に感謝の気持ちをお伝えして欲しいとのことでした。先月、大きな干ばつがあったそうですが、我々のプロジェクトのおかげで水の問題は発生しなかったそうです。

活動からちょうど1年が経過している現在、このような感謝の言葉を頂けることを大変嬉しく思います。

ロータリー財団によるグローバル環境保護プロジェクト

- 2023年12月にRI日本事務局財団室より、地区R財団委員長あて環境分野のグローバル補助金プロジェクトで実施国側RC（リーチRC）がパートナーを探している。
- 日本は牡蠣の養殖が盛んで日本のクラブの地区が良いパートナーになれるのではないかということで第2690地区を含む牡蠣の養殖が盛んな地区に連絡があった。

- ・ 通常、DDFプロジェクトはクラブ同士で実施されるが、今回は第2690地区とリーチRC（実施国側クラブ）によるプロジェクトとなった。
- ・ 第2690地区からDDF5,000ドルを寄贈し、2024年6月25日にプロジェクトが正式に承認された。
- ・ プロジェクト名は「The Oyster Reef Project」



グローバル補助金申請 オイスターリーフプロジェクト

補助金番号 GG2350695 が承認された。
ハンティントン・ノースポート水域の水
質改善の「オイスターリーフプロジェク
ト」の視察報告を紹介。



プロジェクトの概要

1 目的

水質改善、生態系
回復、養殖業の促進

2 方法

牡蠣の養殖と Sugar Kelp
の栽培

3 エリア

ハンティントン・ノースポート水域



現状の課題

栄養塩過多

過剰な栄養塩負荷により、藻類の異常増殖や貧酸素状態が発生しています。

ビーチの閉鎖

湾や港のビーチが定期的に遊泳禁止となっています。

生態系の劣化

水質悪化により、海洋生態系が危機に瀕しています。

プロジェクトの主な活動

1

牡蠣の養殖

Spat-On-Shell法を用いて、牡蠣育成します。

2

牡蠣礁の造成

育った牡蠣を海底に移植し、牡蠣礁を形成します。

3

Suger Kelp の栽培

冬季には、Suger Kelp を栽培して栄養塩を吸収します。

4

モニタリング

市民科学者による継続的な観察と分析を行います。





カキの養殖プロセス

幼生の育成

Spat-On-Shell法で、カキの幼生を育てます。

ナーサリードック

特別設計された構造物で、幼生を保護します。

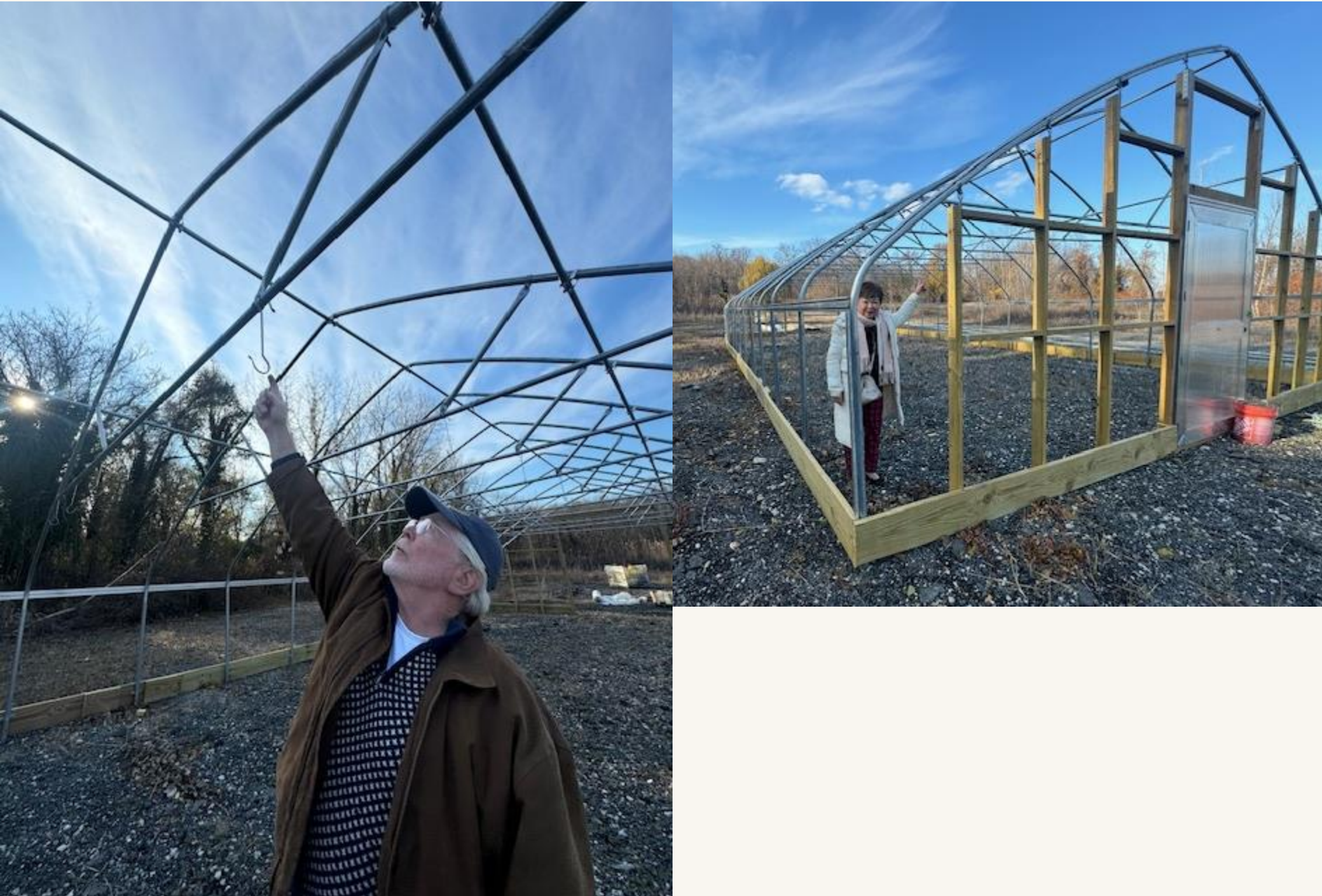
成長と移植

十分に成長したカキを海底に移植します。

礁の形成

移植されたカキが自然に礁を形成します。

Suger Kelp の栽培



目的

冬季の塩吸収と二酸化炭素の除去を行います。

方法

在来種の Suger Kelp を栽培します。

利用

乾燥・加工後、有機肥料として活用します。

協力団体

ハンティントン町海事サービス

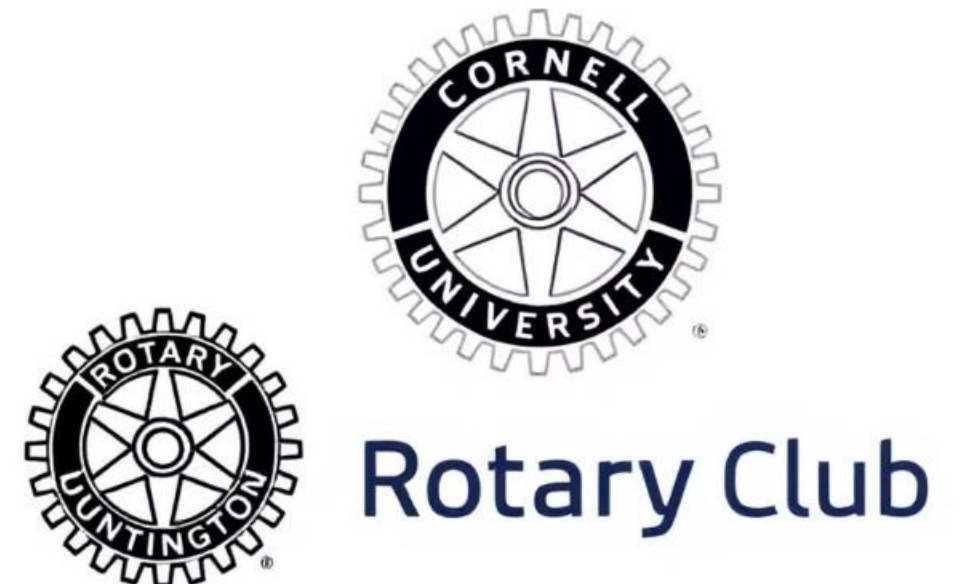
施設の提供と運営サポートを行います。

コーネル大学協同普及サービス

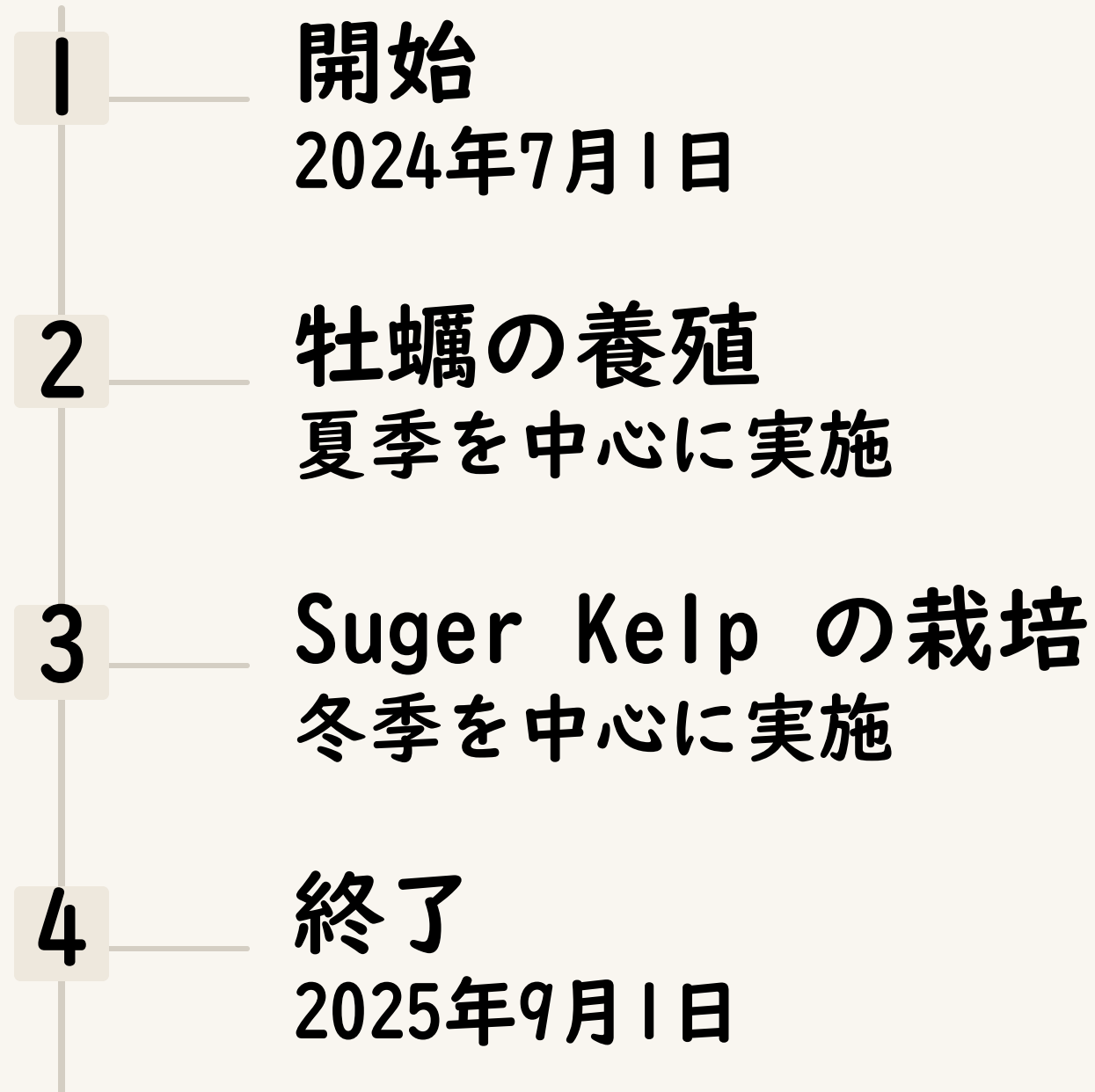
専門知識の提供と技術指導を担当します。

リーチロータリークラブと第2690地区

ボランティアの募集と資金調達を支援します。



プロジェクトの実施期間



プロジェクトの実施手順

1

施設整備

養殖施設のアップグレード（4週間）

2

ボランティア研修

市民科学者の育成（2週間）

3

牡蠣の養殖

清掃、育成、データ収集（12週間）

4

Suger Kelpの栽培

ライン設置と育成（4週間）

5

モニタリング

カキ礁と Suger Kelp の観察（12ヶ月）



牡蠣礁のモニタリング



サイズ測定

牡蠣の成長率を定期的に計測します。



生存率確認

牡蠣の生存状況を観察し記録します。



生物多様性

牡蠣礁周辺の生物種を観察します。



水質検査

定期的に水質パラメータを測定します。

Sugar Kelp栽培のモニタリング

成長率測定

定期的に Sugar Kelp の
長さと重量を測定します
。

栄養塩吸収量

Sugar Kelp の栄養塩吸
収効率を分析します。

収穫と加工

適切な時期に収穫し、有機
肥料として加工します。



技術革新の導入

ドローン監視

広範囲のカキ礁モニタリングにドローンを活用します。

AIデータ分析

機械学習を用いて生態系の変化を予測します。

IoTセンサー

リアルタイムの水質データを収集します。

バイオセンサー

有害物質の早期検出システムを開発します。

牡蠣殻リサイクルプログラム



1 回収

地元レストランから牡蠣殻を回収

2 処理

殻を洗淨し、自然乾燥させる

3 環境教育

リサイクルの重要性を地域に啓発

4 再利用

新しい牡蠣礁の基盤材として活用





第7255地区REACHロータリークラブ会長James Wylie氏
ドローン専門家のJoan Cohen氏のインタビュー動画



- FIFISH V6 EXPERT はプロ向けの水中ドローンです。
- 多機能で拡張性の高い水中作業ツールとして、安全かつ効率的な水中作業を実現できます。
- 多機能の拡張インターフェースを用いて、さまざまな応用シーンに合わせ、専門性の高いオプションパーツを自由に組み合わせ使用することで水中作業を効率的に行うことができます。



ニューヨークからロングアイランドまでの My Journey



NYのペンステーションから電車で約1時間30分でハンチントン駅に到着します。



ロータリー第7255地区のガバナーご夫妻とディナー



Environmental Action Coalition Huntington
Rotary ClubのJames Wylie会長と牡蠣の食べ比べ。
ロングアイランドとマサチューセッツの牡蠣の食
べ比べをしました。



11月30日から12月2日まで
James Wylie会長宅に宿泊



心地よい素敵な室内



Wylie会長夫妻と
街へ映画鑑賞に



平和会議に参加
トルコイスタンブールにて（2025年2月）



イスタンブールの
ガバナー事務所に
お伺いしました。

イスタンブール（トルコ）にあるバーチェシヒル大学（Bahçeşehir University）
に新たなロータリー平和センターが開設されました。
バーチェシヒル大学のロータリー平和センターに見学に行きました。
広い敷地の中にスタイリッシュな建物の中に平和センターがあります。
世界の平和センターを示している地図や実際に勉強するお部屋などを視察しました。
フェローの方たちのお話を聞くこともできました。





ご清聴ありがとうございました。